

財団法人福岡県すこやか健康事業団における健診（検診）実績報告

当事業団は、がん・生活習慣病の克服に向けて、科学的根拠に基づき質の高い健診（検診）、知識の普及啓発、調査研究等を行うために学術研究センターを設置しております。

特に、各種健診（検診）データの分析・評価を行い、予防医学等に関する調査研究に資するため、胃・大腸がん、乳がん、子宮がん、肺がん、生活習慣病、労働衛生の6部門からなる学術専門部会を設置し、各委員はそれぞれの分野の有識者で構成されています。

今回の報告は、6学術専門部会で分析・評価いただいた実績報告です。

【平成21年度健診（検診）実績概要報告】

平成21年度に当事業団で行いました健診（検診）総数は、延べ561,137人で、その内訳は、がん検診316,106人（前立腺がんを含む）、一般健康診断210,463人（定期健康診査、特定健診、特殊検診など）、その他34,568人（学校関係、骨密度検診など）でした。

がん検診については、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がんを対象に305,794人の検診を行い、462人のがんが発見され、このうち284人（62%）が早期がんでした。

近年、日本人の男性では、胃がん、大腸がん、肺がんの順に罹患率が高く、女性では、乳がん、大腸がん、胃がんの順に高くなっています。がん治療の進歩により、がんも早期で発見されれば治る病気であると言われる今日この頃です。定期的ながん検診を受けましょう。

一方、平成20年度から生活習慣病の発症を未然に防ぐために、メタボリックシンドロームの該当者や予備軍を見つけ出し、対象者の生活改善を指導していく特定健診、特定保健指導が開始されました。特定健診は職域（企業等）44,869人、地域（住民）32,038人の計76,907人でした。特定保健指導は職域で積極的支援（生活習慣改善の必要性が高い方）173人（評価率98.3%）、動機付け支援（対象者自身の努力による行動変容が促される方）132人（評価率98.5%）、地域で積極的支援100人（評価率80.0%）、動機付け支援300人（評価率95.7%）の計705人を実施しました。支援開始6ヶ月後の腹囲・体重の変化の平均は、職域の積極的支援で-2.0cm・-1.6kg、職域の動機付け支援で-1.7cm・-1.5kg、地域の積極的支援で-1.2cm・-1.4kg、地域の動機付け支援で-0.2cm・-0.7kgでした。

特定保健指導により、概ね腹囲・体重の改善が見られました。メタボリックシンドロームの改善には体重減少やリバウンド防止が重要であることから、日頃から継続的に生活習慣病の改善に努めましょう。

当事業団の健康診断及びそのデータを皆様の健康管理に役立てていただき、疾病予防、疾病の早期発見・早期治療の一助になれば幸いです。

平成24年4月

財団法人 福岡県すこやか健康事業団
会長 原 信之

平成21年度 がん検診実施状況総括(全国支部合計)

	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん	がん発見率	
	(A)	(B)	B/A×100	(C)	C/B×100	(D)	D/A×100	
胃がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	83,979	5,753	6.9	4,294	74.6	105	0.13
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,477,748	217,180	8.8	160,982	76.9	2,838	0.12
子宮頸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	63,557	619	1.0	539	87.1	36	0.06
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,457,009	14,519	1.0	10,598	81.6	947	0.07
乳がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	63,517	4,776	7.5	4,368	91.5	224	0.35
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,329,136	84,482	6.4	72,527	86.5	2,966	0.22
肺がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	39,151	1,825	4.7	1,604	87.9	27	0.07
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,615,089	64,284	2.5	51,696	80.7	1,161	0.04
大腸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	55,590	3,281	5.9	2,064	62.9	70	0.13
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,249,954	139,125	6.2	91,047	69.4	3,313	0.15

1. 胃がん検診の実施状況

	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検 受診者数 (人)	精検 受診率 (%)	がんで あった者 (人)	がん 発見率 (%)	早期 がん数 (人)	早期 がん率 (%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	51,232	3,340	6.5	2,993	89.6	87	0.17	56	64.4	2.60
職域	30,531	2,197	7.2	1,179	53.7	13	0.04	8	61.5	0.59
ドック	2,216	216	9.7	122	56.5	5	0.23	3	60.0	2.31
計	83,979	5,753	6.9	4,294	74.6	105	0.13	67	63.8	1.83

平成21年度の胃がん検診受診者数は地域で51,232人、職域で30,531人、人間ドックで2,216人、計83,979人であった。全体の要精検率は6.9%、精検受診率は74.6%、発見がん数は105人でがん発見率は0.13%、そのうち早期がんは67人で早期がん率63.8%、陽性反応適中度は1.83%であった。

いずれの値も、厚生労働省が平成20年に策定した評価指標(許容値: 精検受診率70%、要精検率11%以下、がん発見率0.11%、陽性反応適中度1.0%以上)を満たすものであったが、受診率をいかに上げていくかである。

2. 子宮頸がん検診の実施状況

平成21年度 子宮頸がん検診実施状況

	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検 受診者数 (人)	精検 受診率 (%)	がんで あった者 (人)	がん 発見率 (%)	早期 がん数 (人)	早期 がん率 (%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	51,748	420	0.8	392	93.3	29	0.06	19	65.5	6.90
職域	11,126	186	1.7	137	73.7	7	0.06	5	0.0	3.76
ドック	683	13	1.9	10	76.9	0	0.00	0	0.0	0.00
計	63,557	619	1.0	539	87.1	36	0.06	24	66.7	5.82

平成21年度の子宮頸がん検診受診者数は地域で51,748人、職域で11,126人、ドックで683人の計63,557人であった。要精検率1.0%、精検受診者数は539人、精検受診率は87.1%、発見がん数は36人でがん発見率は0.06%、そのうち早期がんは24人で早期がん率66.7%、陽性反応的中率は5.82%であった。

これは、「がん検診事業の評価に関する委員会(厚生労働省)」で報告している子宮がん検診に対する許容値(要精検率1.4%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.05%以上、陽性反応的中率4.4%以上)を全て満たすものであった。

3. 乳がん検診の実施状況

	受診者数 (人)	要精者数 (人)	要精検率 (%)	精検 受診者数 (人)	精検 受診率 (%)	がんで あった者 (人)	がん 発見率 (%)	早期 がん数 (人)	早期 がん率 (%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	51,419	3,858	7.5	3,643	94.4	202	0.39	128	63.4	5.2
職域	11,383	848	7.4	670	79.0	21	0.18	13	61.9	2.5
ドック	715	70	9.8	55	78.6	1	0.14	1	100.0	1.4
計	63,517	4,776	7.5	4,368	91.5	224	0.35	142	63.4	4.7

参考:平成20年度乳がん検診状況

	受診者数 (人)	要精者数 (人)	要精検率 (%)	精検 受診者数 (人)	精検 受診率 (%)	がんで あった者 (人)	がん 発見率 (%)	早期 がん数 (人)	早期 がん率 (%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	41,872	3,952	9.4	3,624	91.7	156	0.37	105	67.3	3.9
職域	10,409	992	9.5	817	82.4	12	0.12	7	58.3	1.2
ドック	858	84	9.8	60	71.4	1	0.12	1	100.0	1.2
計	53,139	5,028	9.5	4,501	89.5	169	0.32	113	66.9	3.4

平成21年度の乳がん検診受診者数は地域で51,419人、職域で11,383人、人間ドックで715人、計63,517人であった。全体の要精検率は7.5%、精検受診率は91.5%、発見がん数は224人でがん発見率は0.35%、そのうち早期がんは142人で早期がん率63.4%、陽性反応適中度は4.7%であった。
これらの成績は、厚生労働省が平成20年に策定した地域検診における評価指標（許容値：要精検率11.0%以下、精検受診率70%、がん発見率0.23%、陽性反応適中度2.5%以上）は満たしている。下表は平成20年度の乳がん検診状況であるが、これと比較したところ、受託団体が2市町村減ったにも関わらず約1万人の増加があった。

クーポン券の効果～節目年齢の受診者数(地域のみ)

節目年齢	H20			H21			前年比		
	初回	非初回	総計	初回	非初回	総計	初回	非初回	総計
40歳	413	207	620	1,589	290	1,879	3.85	1.40	3.03
45歳	338	310	648	905	499	1,404	2.68	1.61	2.17
50歳	213	321	534	994	634	1,628	4.67	1.98	3.05
55歳	415	605	1,020	1,207	962	2,169	2.91	1.59	2.13
60歳	477	834	1,311	1,884	1,697	3,581	3.95	2.03	2.73
計	1,856	2,277	4,133	6,579	4,082	10,661	3.54	1.79	2.58

平成20年度と平成21年度の節目年齢の受診者数を比較し、クーポン券の効果を見た。なお、受託団体を同年度同じ団体になるように合わせている。
節目年齢の受診者数は平成20年度に比べて平成21年度は各年齢とも増加し、全体で約2.6倍となっている。中でも、過去3年以内に受診歴のない者を初回受診者とした場合、初回受診者は約3.5倍であった。

4. 大腸がん検診の実施状況

	受診者数 (人)	要精者数 (人)	要精検率 (%)	精検 受診者数 (人)	精検 受診率 (%)	がんで あった者 (人)	がん 発見率 (%)	早期 がん数 (人)	早期 がん率 (%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	29,305	1,867	6.4	1,527	81.8	58	0.20	32	55.2	3.11
職域	23,527	1,281	5.4	481	37.5	10	0.04	4	40.0	0.78
ドック	2,758	133	4.8	56	42.1	2	0.07	2	100.0	1.50
計	55,590	3,281	5.9	2,064	62.9	70	0.13	38	54.3	2.13

平成21年度の大腸がん検診受診者数は地域で29,305人、職域で23,527人、人間ドックで2,758人、計55,590人であった。全体の要精検率は5.9%、精検受診率は62.9%、発見がん数は70人でがん発見率は0.13%、そのうち早期がんは38人で早期がん率54.3%、陽性反応適中度は2.13%であった。
厚生労働省が平成20年に策定した地域検診における評価指標（許容値：要精検率7.0%、精検受診率70%、がん発見率0.13%、陽性反応適中度1.9%以上）は満たしている。

5. 肺がん検診の実施状況

1)平成21年度 肺がん検診受診状況

	受診者数 (人)	要精者数 (人)	要精検率 (%)	精検 受診者数 (人)	精検 受診率 (%)	がんで あった者 (人)	がん 発見率 (%)	早期 がん数 (人)	早期 がん率 (%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	37,140	1,746	4.7	1,541	88.3	25	0.07	13	52.0	1.43
職域	2,011	79	3.9	63	79.7	2	0.10	0	0.0	2.53
計	39,151	1,825	4.7	1,604	87.9	27	0.07	13	48.1	1.48

2)読影判定別 がん発見内訳(喀痰のみ除く)

	受診者数 (人)	読影判定 D(人)	がん(人)		読影判定 E(人)	がん(人)		陽性反応適中度 (%)	
			早期	進行		早期	進行	全体 (D+E)	Eのみ
地域	37,140	1,288	9	7	455	4	5	1.55	1.98
職域	2,002	75	0	0	4	0	2	2.53	5.00
計	39,142	1,363	9	7	459	4	7	1.48	2.40

平成21年度の肺がん検診受診者数は地域で37,140人、職域で2,011人、計39,151人であった。要精検率は4.7%、精検受診率は87.9%、発見がん数は27人でがん発見率は0.07%、そのうち早期がんは13人で早期がん率48.1%、陽性反応適中度は1.48%であった。
これは、「がん検診事業の評価に関する委員会(厚生労働省)」で報告している肺がん健診に対する許容値(要精検率3.0%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.03%以上、陽性反応適中度1.3%以上)は、D判定まで含んでいるので要精検率は高くなるが、それ以外は満たすものであった。
読影判定別では、読影判定Dが1,363人、読影判定Eが459人であった。そのうちD判定からは早期9例、進行期7例の計16例、E判定からは早期4例、進行期7例の計11例が発見された。

6. 健診・特定保健指導
受診者および有所見者状況

平成21年度 健診受診者総数

129,004人



特定健診
(計76,907人)



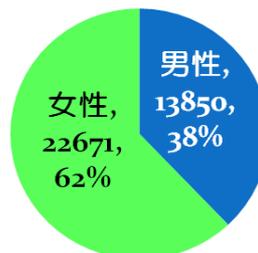
平成21年度の健診受診者総数は、職域92,483人、地域36,521人の計129,004人であった。
その内、特定健診は職域44,869人、地域32,038人の計76,907人であった。

<性別・年齢構成>

【職域】



【地域】



	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
男性	10,692	15,377	11,243	12,485	5,657
女性	8,617	9,783	7,897	7,768	2,964

	39歳以下	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
男性	661	1,393	1,938	5,757	4,101
女性	2,147	1,869	3,511	9,830	5,314

性別・年齢別にみると、職域は、男性が6割を占め、30歳代が最も多く地域では、女性が約6割を占め、年齢も60歳代が最も多くなっている。

特定保健指導

<腹囲・体重の変化の平均(支援開始6ヶ月後)>

【職域】

積極的支援		動機付け支援	
腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)	腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)
-2.0 cm	-1.6 kg	-1.7 cm	-1.5 kg

【地域】

積極的支援		動機付け支援	
腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)	腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)
-1.2 cm	-1.4 kg	-0.2 cm	-0.7 kg

7. 労働衛生

一般健康診断実施状況

年齢別一般健康診断実施者数と性別年齢構成

年齢別に区分すると、29歳以下は19,309人、30～39歳は25,160人、40～49歳は19,140人、50～59歳は20,252人、60歳以上は8,619人であった。年齢構成は60歳以上を除くと、どの年齢層も約20%ずつ受診していた。

